



神港学園高等学校
進路指導部
キャリアアップ
サポート通信第1号
平成30年10月10日

勉強にスポーツに、最適なさわやかな季節になりました。第2学期の成績を決める一つの材料となる中間考査が、目の前です。しっかりと日頃の成果を発揮したいものです。

さて進路指導部では、以前から保護者の皆様や卒業生の皆様などをお願いして、キャリアアップサポーターになっていただいています。登録をいただいた方には、神港学園生のために、様々な職業の紹介をしていただいています。これまでに紹介いただいた方のお話は、すでに本校のホームページに掲載してあります。本日はその中から、4名の方のお話を、皆さんに紹介します。学習の合間に読んで将来の進路の参考にして下さい。

自動車整備士について

Q1：整備士になるにはどうしたらいいですか？

A1：整備士の資格が必要です。自動車整備専門学校を卒業するか、自動車整備工場で3年以上の実務経験をすると国家試験を受けることができます。

Q2：自動車整備系の大学を卒業しないと就職できませんか。

A2：高校で普通科からの場合、自動車専門学校に進むか大学で自動車学科を設けているところに進学すると国家試験を受けることができます。

Q3：自動車専門学校と短大では、学費はどちらが安いですか。

A3：専門学校のほうが安いと思います。

Q4：どのような仕事内容ですか。

A4：車の車検（部品の交換）・点検・修理を行います。車のお医者さんです。

Q5：一人前になるのに何年ぐらいかかりますか。

A5：3年以上です。

Q6：整備の際に一番注意することは何ですか。心がけていることを教えてください。

A6：ねじの締め忘れがないか、部品を正しく取り付けられているか、ということです。

Q7：達成感やいやなこと、苦痛なことについて教えてください。

A7：修理が終わって車を引き渡してから、しばらく経って「車の調子が良くなりました。」とお客さまに言われること。工場には冷暖房がないため作業中は、冬は寒く、夏は暑いこと。

Q8：車の中で値段の高い部品は何ですか。

A8：エンジンです。

Q9：バスや大型トラックの整備もされますか。

A9：します。特別な免許はいりません。

Q10：給料や収入面は安定していますか。

A10：安定しています。残業や歩合給で増減はあります。

小学校の先生（教諭）について

Q1：小学校の先生になるにはどうしたらいいのですか。どこの大学に行けばいいのですか。どのようなルートをとるのですか。どんな勉強をすればよいのですか。

A1：教員免許という資格を取得することが必要です。教職課程とって、大学や短大、大学院に行き、教職に必要な勉強をして単位を取り、卒業と同時に教員免許状をもらうことができます。4年制大学・・・1種免許状 短期大学・・・2種免許状 大学院・・・専修免許状 教職課程を履修していない人であっても、「教員資格認定試験」に合格することができれば、2種免許状を取得することができます。

教員免許取得後、公立の場合には、各都道府県などで実施されている教員採用試験、私立の場合には、各小学校の教員採用試験を受験します。教員採用試験に合格することができれば、小学校教諭として働くことができます。

教員免許状を取得可能な大学、短期大学に入学し、法令で定められた科目及び単位を修得して卒業後、各都道府県教育委員会に教員免許状の授与申請を行うことが必要です。文部科学省ホームページ「教員免許状を取得可能な大学等」で確認することができます。

大学等の最終学年で、資格取得見込みで採用試験を受けられます。各都道府県が行う教員選考採用試験の実施時期や内容は県市によって様々です。

<スケジュール>

5～6月出願 7月第1次試験 8月第2次試験 10月合格発表

<内容>第1次試験

- 一般教養（人文・社会・自然科学など）や教職教養（教育法規・教育原理・教育心理など）
- 教科専門（小学校全科の指導内容や指導方法、専門知識及び能力について）
- 面接試験（個人面接、集団面接、集団討論など）

第2次試験

- 筆記試験・・・小論文、○面接試験・・・個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業など
- 実技試験・・・体育、音楽、美術、英会話など

このような採用試験を乗り切るためには、幅広い分野の知識と学力、面接での受け答えや集団での討論、実技（ピアノや歌、水泳など）等、自分の持てるものを十分に発揮すること、表現力、人とかかわっていく力が求められます。

日ごろから、学習はもちろんのこと、新聞を読んだり、読書したり、子どもにかかわる活動に参加したりすることが自分のスキルアップにつながるのではないのでしょうか。学力もそうですが、幾度もの面接があり、人間重視の選考が続いています。

私は、大阪市立の小学校に勤めています。毎年、武庫川女子大学、大阪教育大学、大阪成蹊大学などの学生さんが教育実習に来ます。幼、保、小、中、高の免許状が取れると聞いています。また、授業の一環としてボランティア活動で来る学生さんもいます。現場に入り経験することで、採用後の仕事に役立つことと思います。

Q2：給料はどれくらいですか。

A2：公立の小学校の先生は公務員です。地方公務員の給料表の仕組みに基づいて支給されます。初任給は、大卒の小学校教諭で、20万～22万といわれています。しかし、この額をそのままもらえるわけではありません。税金や健康保険料、年金料等が引かれます。年齢に応じて上がっていきます。

Q3：小学校で、やり甲斐や楽しいことはどんなことですか。

A3：1年生から6年生までの発育、発達は大変です。その成長を見守ることは大きな喜びがあります。日々時間をかけて組み立てた授業で子ども達が興味深く勉強し、力がついていく姿を見たり、友達とのかかわりの中でお互いを分かり合い、相手を思う気持ちが育っていく姿を見たりした時は、感動します。

Q4：子どもとのコミュニケーションをとるにはどうしたらいいですか。小学校では、一人ひとりにまんべんなく対応するにはどのような工夫が必要ですか。

A4：一人一人をよく観察することを心がけています。朝の挨拶の時から、顔色、様子を見て体調はどうか、心の落ち着きはどうかを察知し、一日元気で過ごせるように気を配ります。外遊び

と一緒にする。1日1回良いことを見つけて声をかける。いけないことをしたときはしっかり叱る。帰りはハイタッチをする。などまだまだたくさんあります。

Q5：小学校で辛いと感じることは何ですか。休みはありますか。

A5：勉強を教えるだけでなく、事務的な仕事もたくさんあります。パソコンに向かう時間も短くありません。また、校務分掌と言って、校内の係をいくつも受け持っています。生活科のお世話役で必要なものを購入して、健康教育の仕事で年間計画を作成したり、新1年生の健康診断をしたり、委員会の指導をしたり、、、辛いというより、時間を作り出す苦労があります。勤務時間は朝8:30から夕方5:00ですが、それでは時間が足りず10時間から11時間は働いています。休みは、公務員なので基本土日祝はお休みです。大阪市は、学期に2回土曜日学校があります。代休は長期休み(夏休みなど)に取ります。夏休みも、日直やプール当番、研修会への参加などで出勤します。お盆前後に10日ほど普段取れない休みをまとめて取ります。年間20日ほどの有給休暇があります。

Q6：教員試験の難易度を教えてください。小中高のどれが一番なりやすいですか。

A6：小学校教員採用試験の受験者数は、近年増加の傾向にあります。採用者数も増加しているため、採用倍率はあまり変化がありません。採用倍率は4.5倍は決して低い倍率ではありませんが、中学校の7.5倍、高校の7.7倍と比べると、教員職の中では合格しやすいといえるかもしれません。

Q7：頭が悪くてもなれますか。

A7：頭が悪いかどうかではなく、なりたいかなりたくないか、やるかやらないかでしょうか。免許状を取得し、教員採用試験に耐え得る学力を身に着けておくことが大切です。しかし、中には試験に合格しなくても、講師登録をして、先生の仕事を続け、何度も採用試験にチャレンジする方も多くいらっしゃいます。

Q8：教えるときに最も気にするのは何ですか。授業の注意点、工夫点を教えてください。

A8：授業は45分です。この短い間に、気づく・みとおす・考える・まとめるなどの活動が展開されていきます。興味関心を持たせることが一番大切です。一番最初の「気づく」部分を大切にしています。

Q9：小学校では、1日にどれくらいのペースで授業を進めますか。

A9：教科書に沿って学習します。教科書用指導書があり、1時間に進むところは学年に応じて決まっていますが、子供たちの様子を見ながら無理なく進めています。

Q10：楽しいですか。しんどいですか。毎日何時に寝ますか。子どもたちに教育するのはたいへんですか。

A10：毎日子供たちと一緒に泣いたり笑ったり、悩んだり。その学年なりの楽しさがあります。家族の世話があるので12時ごろ寝ます。若い先生たちは、持ち帰った仕事や明日の授業の準備でやはり寝るのは遅いようです。学級、学校では毎日いろいろなことが起こります。子どもだけではなく、保護者や地域の方とのかかわりもすごく大切なことです。うまくいかないこともたくさんあります。しかし、自分一人で仕事をしているわけではありません。校長先生、教頭先生、学年主任の先生、同僚の先生、職員の方と組織で動いています。何か問題が起きたときはすぐに報告、連絡、相談してみんなで解決していきます。学校の仕事は協力することが大切です。

<参照>「文部科学省ホームページ」「小学校教師になるには-Career Garden」「中学校教師になるには-Career Garden」

「建築士」とは

「建築士」や「建築」に興味のある生徒の皆さん、こんにちは。私は建築士なので、その仕事についてご紹介します。「建築士」は国家試験を受けて得られる資格で、「一級建築士」「二級建築士」「木造建築士」がいます。この資格の違いは、「どんな建築物の設計をすることができるか」の違いで、携わることのできる建築物の範囲が決められています。

ただし、「建築士法」で制限されていない仕事であれば、この資格がなくても設計やデザインができる仕事もあります。例えば、法に制限されないリフォームや店舗デザインの仕事は、資格がなくてもできます。建築や空間デザインが好きでしたら、資格が取れないから、と諦めてしまわないでトライしてみてください。

「建築士」になるには

国家試験である建築士試験に合格しなくてはいけません。その前に、まず受験資格を得るために、学校で必要な講義を受けることと、実際の仕事を経験する必要があります。

「建築士」の仕事

資格を得るにはなかなかハードルが高いですが、実際の仕事も設計から工事監理まで、幅広い知識と経験が必要になります。それでも、自分が描いた図面が形となり、その空間の中に自分がいることを体験することには、いつも感動を覚えます。もちろん、建築主に喜んでいただくと、感動は倍増します。

設計の仕事は責任重大&感動莫大

建築にはお金が掛かります。つまり、設計するということは、建築主が払う膨大なお金の使い道を決める役目を担うことになります。ですから、責任は重大で、お金の問題を常に意識しなくてはいけません。それでも人様のお金で(時には億単位!)沢山の人に喜んでもらえる空間や、家族が心地よく過ごしてもらえる住まいをデザイン出来る仕事は、とても感動的でやりがいのある仕事です。

でも、建築は設計する人だけではできません。実際に造り上げていくのは現場の職人さん達です。みなさんの中から、様々な形で建築に関わる人が生まれ、一つの空間を造りあげることで、一緒に感動できたら素敵なことだと思います。その日を目指して、頑張ってください!

看護師について

神港学園の皆さん、こんにちは。日々、勉強、部活などに頑張っておられる事と思います。皆さんの進学のお手伝いになればと思い、看護師についてご紹介したいと思います。

※看護師資格をとるには？

看護師・准看護師どちらを目指すかにより、専門学校、大学など進学先が変わります。看護師は厚生労働省の国家資格、准看護師は都道府県知事免許です。(准看護師免許は、取得した都道府県内に限定されるものでなく日本全国で有効です。)

※看護師は、どんな仕事をするのか？

病院、クリニック、訪問看護、介護施設、保健所、保育所など、様々な場所で働くことができます。看護師・准看護師資格を取得したら、まず病院に勤務することがほとんどです。

病院、クリニックなどは、病気の治療や検査がスムーズに行くように医療処置の介助や、看護技術が必要となります。介護施設、保育所などでは、日々の健康管理や、急病、怪我などの応急処置が主な仕事になります。

※看護師資格をとれば、一生働いていける？

ライフスタイルの変化に合わせて、働き方を変えながら、看護師を続けることもできます。私は看護師資格を取得し、総合病院に15年勤務後、いったん子育てに専念し、今はクリニックで勤務しています。

男性看護師も年々増えています。訪問看護ステーションを開設した友人もいます。

※仕事は楽しい?大変?

私は、看護師の仕事が好きで、今まで続けて来ています。病気が治り、元気になっていく患者さんがおられる中で、どうしても良くならずお亡くなりになる患者さん、そのご家族と関わることになります。

看護師をして20年以上の中で、忘れられない患者さん、ご家族もたくさんいます。看護師は、それぞれの方の人生に寄り添う事の出来る仕事です。

また、病棟勤務では、ほぼ夜勤もありますし、日々進歩していく医療について勉強も必要です。やはり人の生死に関わる仕事ですので、大変な仕事だと思います。その大変さを乗り越える為に、助け合ったり、気分転換したりする仲間を作ることは、大切だと思います。これは、看護師だけでなく、どの仕事においても大切な事ですね。

そして、看護師が好きな仕事になって、一生続けたいと思って頂きたいと思います。簡単ですが、神港学園の皆さんが将来の目標に向かって進んで行かれることを、応援しております。